

令和6年度 昭島市立清泉中学校

美術 年間指導計画、評価規準〔第3学年〕

学期	月	時数	単元名と内容	単元のねらい	観点別評価規準(主たるもの)		
1	4	1	オリエンテーション	自身の内面にある美しさに対する感情に関心を持ち、自己の発見と美意識と美術に対する関心を持つ。	前学年で得た知識を思い出し、美術科とは何かを考えようとしている。	美術分野についての考察を深め、自分の身近にある美しいと思うものを言葉で表現しようとしている。	身近なものの見方の多様さと美に対する表現の多様さを考察し、クラスメイトの発想から、更に自分の考えを深めようとしている。
	4 5	6	ファイル表紙制作	今までの学校生活で得た知識を工夫して自分らしく、学習に使う道具としてのファイルの表紙を制作する。	前学年までの学習と、自身の経験から得た知識と技術を活用し、美術科の表紙として機能するデザインを制作している。	自分らしいモチーフを選択し、色や形を駆使した表紙のレイアウトを構成し、デザインしている。	美術という科目において、自分が使う教材であることを前提とした表紙を工夫して制作しようとしている。
	5 6	3	鑑賞	ピカソの「ゲルニカ」を鑑賞し、作者の表現の意図や作品に込めた思いを感じ取る。作品が描かれた背景や錯書について知り、美術文化への見方や感じ方を深める。感じたことや気づいたことを話し合い、他者の考えに興味を持ち、作品の見方を深める。	形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、作品の造形的な特徴をもとに、ピカソがゲルニカに託した思いなどを全体のイメージや作風で捉えることを理解している。	ゲルニカや、その他のピカソの作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作品が作られた背景などをもとに作者の表現の意図や工夫を考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	造形活動に託された思いをくみ取り、平和への考え方を深め、他者の考えに理解を示そうとしている。
	7	2	デッサン	鉛筆による多様な垂表現に関心を持ち、モノクロならではの効果をもとに主題を生み出す。主題をもとに、鉛筆の使い方を工夫して白紙の上にそのものを写し取る、ものを観察する目を養う。	モノクロ鉛筆での表現の多様さを知り、その表現を生かして作品を制作しようとしている。物の形、光のある方向、影のつき方、モチーフの持つ厚み、立体形をよく観察して表現している。	白と黒の制約の中で、無から有を生み出す方法を試行錯誤して様々な手法を工夫して作品を制作している。	鉛筆を通して美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に白黒の中から生まれる表現を楽しみ、モチーフを観察して無から有を生み出そうとしている。

9	5	形と色	心に残る風景と、空想の世界をつなげる。思い出の景色と空想上の不思議なことに興味を向け、具象と中小の中にある表現を考察し、主題を生み出す。風景と自分を組み合わせ、自分だけの空間を作る。	美術史上の具象、抽象、印象派問わず様々なジャンルの画家の作品を鑑賞し、美術史の学習の中から自分の興味関心をつなげて考えることができる。	現実には無い不思議なことに空想を膨らませ、表現方法を工夫して現実世界とつなげる表現を模索している。自分のあらわしたい空想の世界に合った材料や用具を選択し、意図に応じて自分の表現方法を追及して創造的に表そうとしている。	自分の感情や思いなどから主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。
10	2	模写	美術史上の有名作品から題材を選び、各自模写をする。			
10 11 12	8	アニメーション	鳥獣戯画の時代から近現代美術史、フェナキスチスコープから手書きアニメーション、コマ撮り、デジタル作画、CGアニメーションまでの日本の文化としての漫画やアニメーションを美術史として学び、漫画とアニメーションの技法を学習する。	漫画やアニメーションが生まれたときから今までの技術の変遷と文化としてのサブカルチャーについて理解している。技法の違いを理解し、自分らしい作品制作のために適切な技法を選択できている。	自画像としてのアニメーションを制作することを想定し、自分らしい技法は何か、どの技法を選択して制作するか計画書を制作する工夫をしている。	日本文化の歴史を辿り、時代を超えた表現の共通点や違いを考えするなどして、美意識を高め、美術文化への見方や感じ方を深めている。中学校3年間の学習を思い出し、自画像としての作品を制作しようとしている。
1 2 3	8	照明のデザイン	さまざまな明かりのデザインに関心を持ち、使う人や設置する場所などの条件をもとに主題を生み出し、主題をもとに光の透け方や漏れ方などを考えながら構想を練る。	形や色、光の効果を考え、印象やイメージを全体として捉え、照明の持つ効果を理解している。材料の特徴を生かして使う人や設置する場所に合う照明器具を設計しようとしている。	さまざまなあかりの目的や機能と、調和のとれた美しさをイメージして、あかりを消した時ともしたところの造形をイメージして制作しようとしている。	完成作品を鑑賞し、お互いの良いところを見つけ、認め合い、意図や工夫を感じ取り感想を言葉にすることができる。光が生活に与える印象や効果への理解を深めている。

		35		評価方法	・ 作品 ・ ワークシート ・ 鑑賞プリント ・ 定期テスト	・ 作品 ・ 授業、実習態度 ・ ワークシート ・ 鑑賞プリント ・ 定期テスト	・ 授業、実習態度 ・ ワークシート ・ 提出物